

『ゆっくり生きる』

田原市田原町 竹原 亮輔

先日3才の娘に上から

「遊んでないで早く歯を磨きなさい！」

と怒鳴ったことがあった。仕事に家事に育児に慌ただしい毎日の中で昔からの趣味だったギターもサイクリングもやらなくなった。とにかく時間がない時間がないと言いながら過ごしていた。

ある日、中途半端に空いた時間があつたのでこれといった目的もなく偶然的に近所の中央図書館に立ち寄った。勤で選んだ小説を手窓際の椅子に座る。木漏れ日が射し込み久しく忘れていた静かな空間がこの上なく心地よく、時間の流れがやたらとゆっくりに感じられた。読書に夢中になり、ひと段落したところでハッとした。

私は何か大切なものを取りこぼしながら生きていたのではないか？

後日、歯磨きの時にしゃがんで娘と視線を同じにしてニコニコしていると

「お母さんがアンパンマンの歯ブラシにしてくれたんだ」

という話をしてくれた。だから嬉しくて歯ブラシを見たり歌ったりしてしまうのだと言ってその小さな手から新しい歯ブラシを見せてくれた。私はそこで初めて歯ブラシが変わっていることに気がついて情けなくなった。

「アンパンマンよかったね」

と私が言うと、少しはにかむ様になっりと笑ってみせた。私にとってはこういう瞬間を拾っていける生き方ができれば本当に幸せな人生だと思う。この子が新しい歯ブラシに喜んでいれることにも気づかないほど何を急いでいたのだろう。時間は十分にあったのだ。

以来、よく読書をするようになり図書館は私の生活になくってはならない。子供達の成長にじっくり向き合いながら、本を読みながら私はゆっくりゆっくり生きていこうと思う。